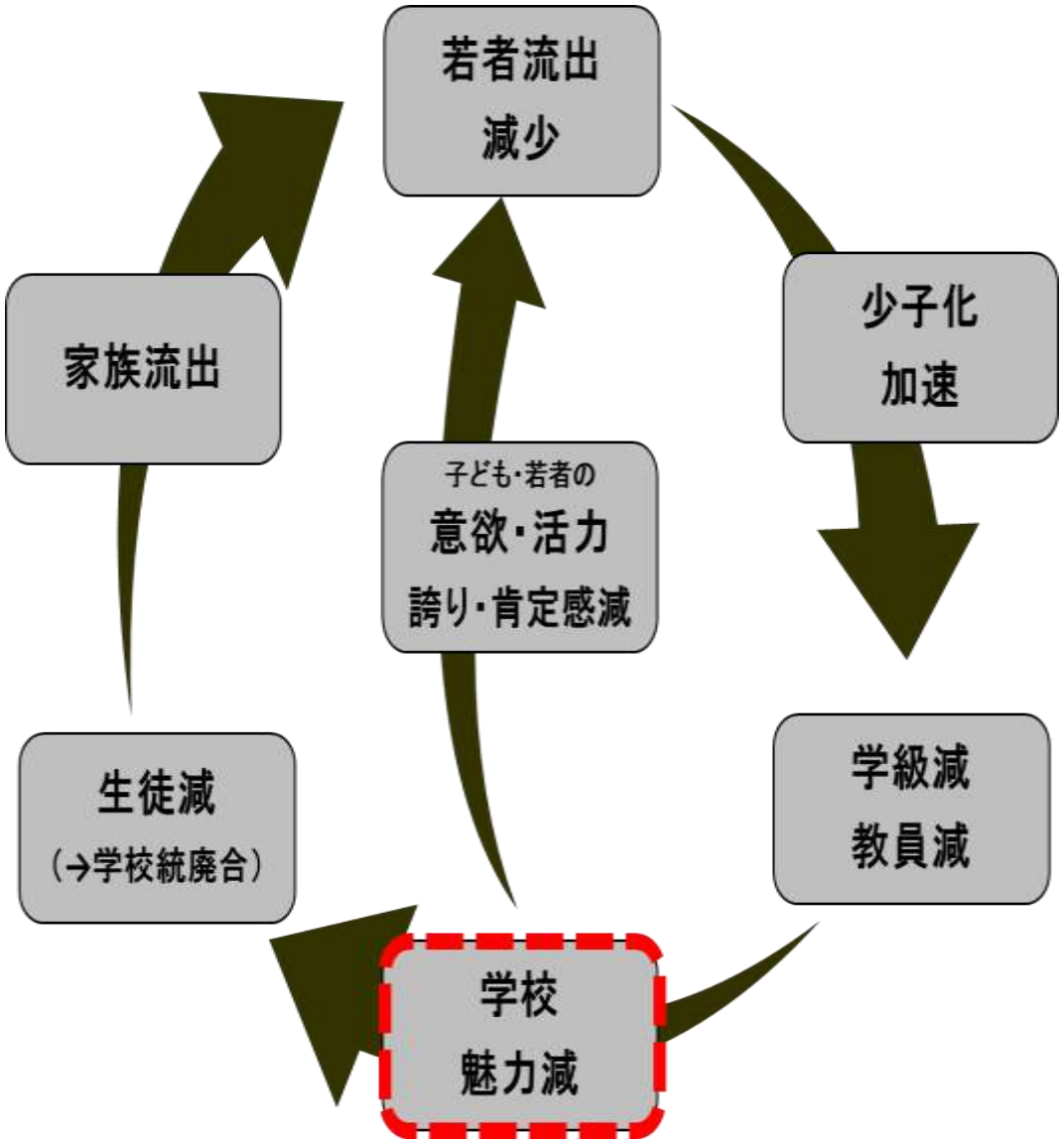
資料５－１

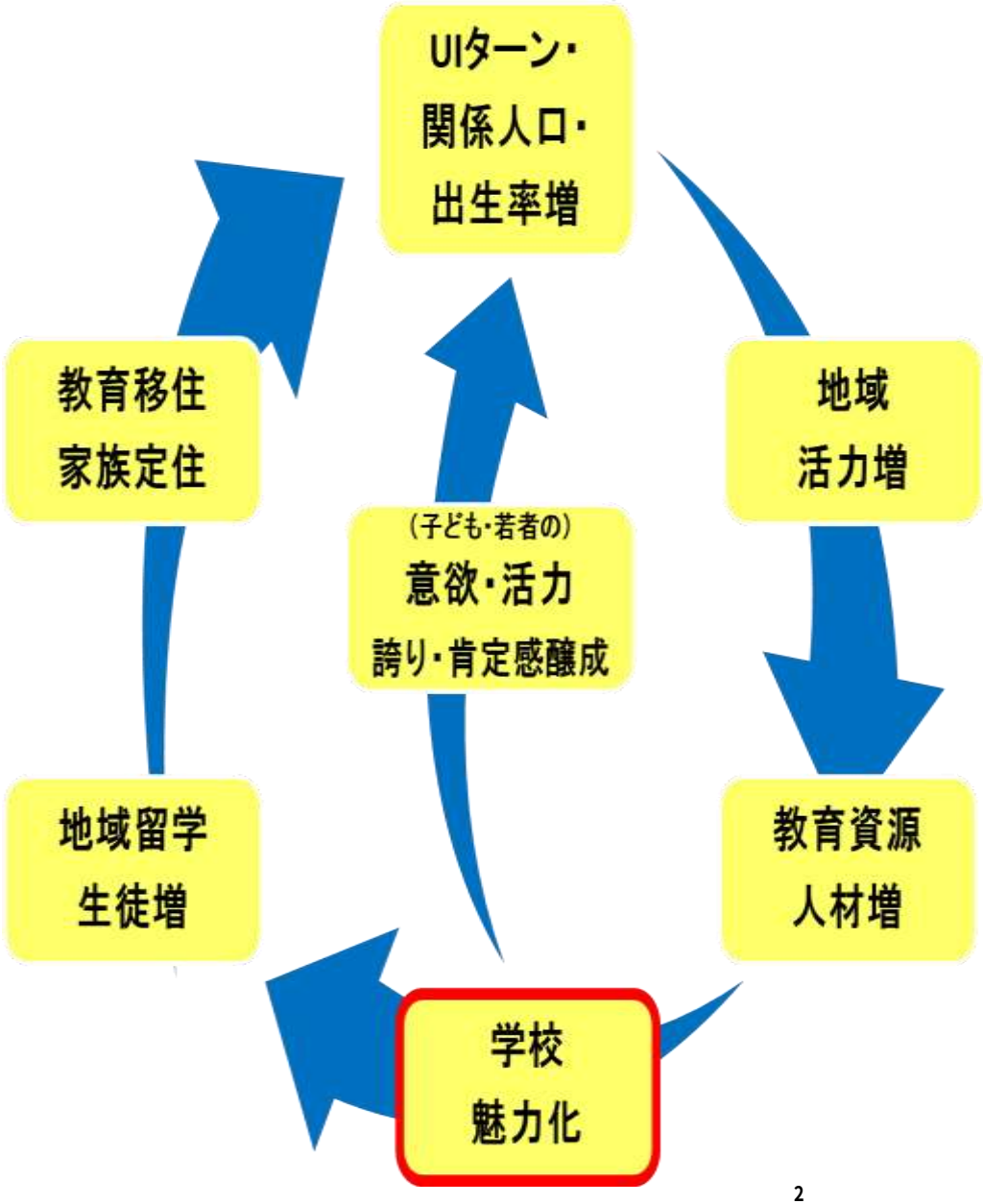
まちとしごとの未来を創る人づくり

地域･教育魅力化プラットフォーム　岩本悠

地方に広がる悪循環
（地域・教育衰退スパイラル）



人づくり・人の流れづくりの好循環
（地域・教育魅力化スパイラル）



学校の有無が人口増減へ与える影響（参考）

例：離島における施設の有無による人口増減率の差

●病院・診療所の有無と人口変動

	1991年人口	2010年人口	人口増減率	差
なし	12,865	7,849	**-39.0%**	**−0.2%**
1軒	86,824	53,152	**-38.8%**	

●高校の有無と人口変動

	1991年人口	2010年人口	人口増減率	差
なし	114,029	69,319	**-39.2%**	**−10.9%**
1校	86,299	61,885	**-28.3%**	

●小学校の有無と人口変動

	1991年人口	2010年人口	人口増減率	差
なし	12,118	6,305	**-48.0%**	**−12.0%**
1校	130,007	83,168	**-36.0%**	

「平成25年度新しい離島振興施策に関する調査業務報告書」
(国土交通省国土政策局離島振興課)より

中山間地においても学校までの距離が定住人口に大きな影響を与えている（参考）

●中山間地域の定住人口維持要件（判別分析結果）

順位	変数名	係数	F値	分析精度
1	⑩ＤＩＤ地区までの所要時間	-1.3215	67.13	
2	①１人当たり課税所得	0.0074	62.36	n=682
3	⑨第３次産業就業人口率	0.1334	50.76	
4	②１人当たり預貯金額	-0.0015	48.30	判別的中率
5	⑦１人当たり工業出荷額	0.0004	15.20	94.4%
6	⑫高校通学困難集落率	-0.0179	13.97	
7	⑭財政力指数	3.2482	10.50	相関比
8	④１戸当たり農業所得	0.0014	10.25	0.680
9	⑮交流事業実施集落率	-0.0412	6.15	
10	③上層農家率	0.0769	4.98	

●中山間集落の消滅要因（判別分析結果）

順位	変数名	判別係数	マハラノビス平方距離	F値	P値	判定
1	⑰役場までの道路距離（80年）	0.158	5.054	16.418	0.0001	[**]
2	①農家数増減率（80-90年）	-0.049	5.069	16.153	0.0001	[**]
3	⑪耕地利用率（90年）	-0.041	5.430	9.671	0.0022	[**]
4	⑱小学校までの道路距離（80年）	0.315	5.471	8.964	0.0032	[**]
5	⑥同居跡継ぎがいる農家率（90年）	-0.037	5.587	7.018	0.0089	[*]
6	⑳平年の積雪量（80年）	0.872	5.607	6.681	0.0107	[*]
7	④販売農家率（90年）	-0.028	5.630	6.305	0.0131	[*]
8	⑭年間寄り合い回数（90年）	-0.081	5.820	3.224	0.0745	[ ]
9	⑫耕作放棄地率（90年）	0.021	5.896	2.015	0.1578	[ ]

「中山間地域の活性化要件」
農林統計協会 橋詰登2003より

25～39歳の移住に関する意識

①地方へ移住したくなる条件（複数回答可・女性）

「子どもの教育環境が整っていること」 30％

②地方に移住したいと思った理由（複数回答可・女性）

「子どもを育てる環境を変えたい」　34％

③移住したいと思った最も大きな理由

「子どもを育てる環境を変えたい」

魅力ある教育環境が
子育て世代のUIターンの誘引に

平成26年　三菱総合研究所
「人口移動効果を踏まえた自治体の福祉政策展開」に関する調査

人口減少時代を切り拓く、小さな人づくり拠点
地域学校創生（＝学校魅力化）

●今までの学校の「標準規模」を覆す、小さくてもキラリと輝く小・中・高校づくり

●大量生産型の教育から、少量多品種高付加価値の人づくり・学校への転換（プロジェクト学習等）

●**コーディネーター**を配置、**地域資源**と**ICT（Edtech）**を活用、他校種、他地域・世界ともつなぐ

●県・市町村は、地方創生交付金等を活用し実行
国は、モデルづくりとスケール（横展開）の統合的支援

20年後を見据えた
持続可能な地方創生の実行へ

学校・教育をテコにした
人の流れ×人づくり

短

地域へ人
（子育て世代・若者）に
定住・UIターン
してもらおう！

人の流れづくり

×

長

地域で未来を
つくる人を
育てよう！

人づくり

↓

子連れ家族・若者のUIJターン・
地域留学・教育移住
（出生率・子どもの増加/人財確保）

地域の人づくりニーズ

●地域の課題（悪循環）

既存産業衰退、若者流出、後継者不足、公共依存
（少子高齢化、文化･行事の衰退、財政難）

●地域の向かう指針

産業創出、若者定住、継承者育成、自立協働

●求められている人材

地域で継業･生業･事業･産業を創る人材
≪地域起業家的精神×グローカルマインド≫

人材自給率アップ

「仕事がないから帰れない」 ⇒「仕事をつくりに帰りたい」

20世紀のふるさと観　21世紀のふるさと観

「志を果たして帰る」 ⇒「志を果たしに還る」

【目指したい姿】地域の次代の人づくり・人材育成エコシステムの構築

地域社会をつくる人づくり

地元就職・関係人口・Uターン

高校教育（高校）

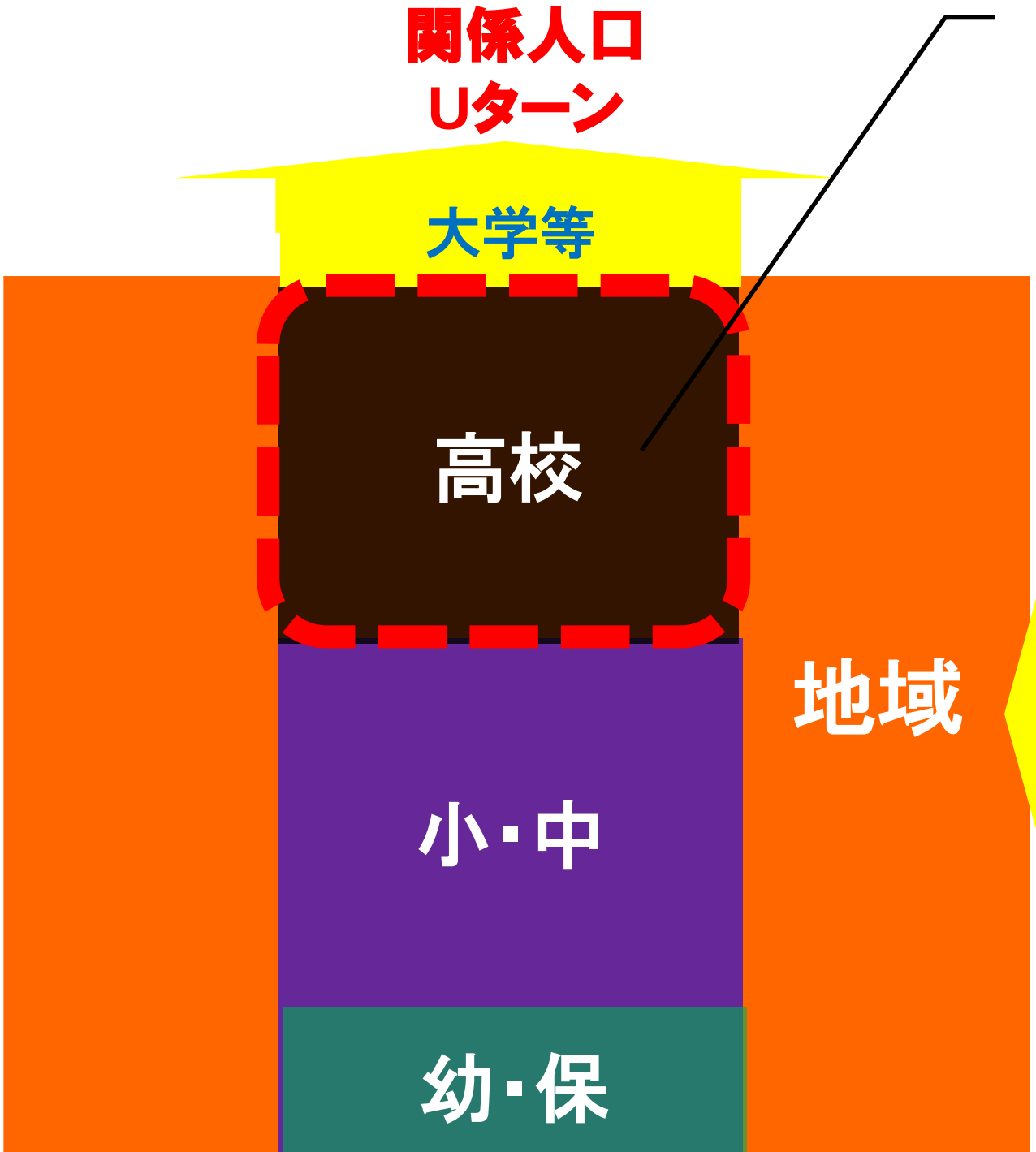
義務教育（小中）

幼・保

社会教育（地域）

with	地域と共に つながり・関わる
for	地域のために 行動・貢献
about	地域について 知る・伝える
in	地域の中で 体験する・浸る

次代の人づくり×人の流れづくりの穴



「高校」が施策の空白地帯

人財排出の
出口

Iターン
教育移住
地域留学

高校と地域
協働

人財育成・還流の
要所

高校魅力化

Theory of Change

2

地域・社会に
開かれた教育環境

1

コーディネーターを配置
協働チーム創生

3

高校生もまちづくり
地域課題解決に挑戦

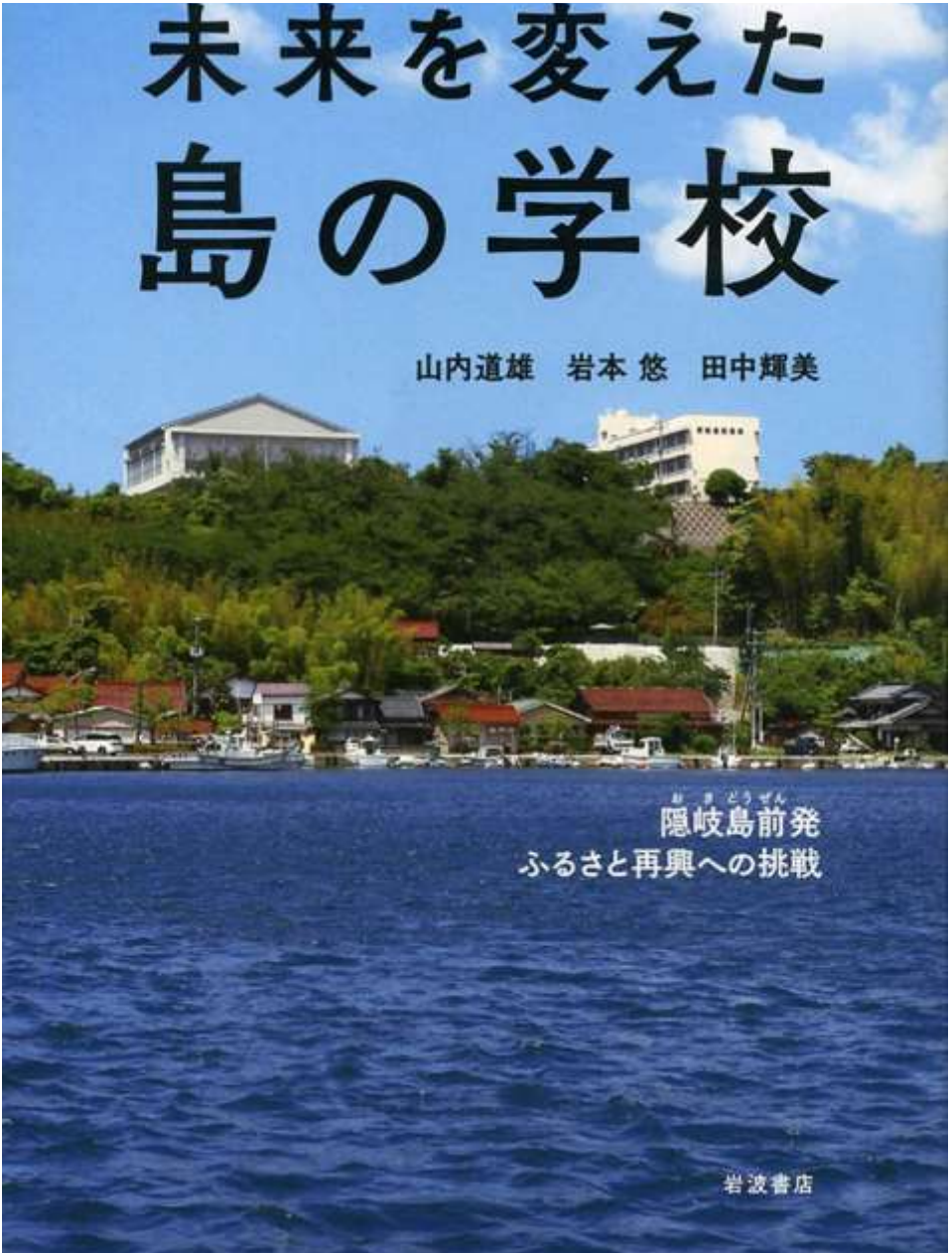
子ども

創り手輩出

未来の象徴「子ども/学校」を核にした「コレクティブインパクト/地方創生」

地域の未来を変える人づくり・人の流れづくり

●事例：島根県海士町　島前高校魅力化プロジェクト



高校魅力化プロジェクト

子どもが「行きたい」、保護者が「行かせたい」、
地域も「活かしたい」、と思う『魅力』ある学校づくり

学校存続の
危機

地方創生の
好機

まち・ひとづくりの
盲点

まち・ひとづくりの
拠点

コーディネーター配置・コンソーシアム構築

高校、役場、教委、議会、PTA、
地域・民間団体、中学校、卒業生会等

◎コーディネーターを高校に配置
◎地域と学校の対話と協働で共通ビジョン策定
◎実働する協働チーム・コンソーシアム構築

地域を舞台に課題発見解決に挑戦するプロジェクト学習

総合学習、各教科や部活動、生徒会、学校行事、土曜日、寮、公立塾等も活用

人づくり

学習

（知識・技能習得）

×

地域づくり

行動

（課題解決・実践）

地域協働でのカリキュラムマネジメント

地域課題を探究し、解決策を立案

地域の方たちと実践するプロジェクト型学習

国際交流スタッフやICTを活用した世界ともつながる学び。

実際に育て、採って、食べる。

地域の課題の解決策を企画し、実践する。

教育環境の課題

地方の子ども･若者の課題

関係性の固定化
価値観の同質化
刺激や競争の不足

▼

多文化協働力の不足

広い視野･創造性の欠如

チャレンジ精神の不足

未来を創る島留学

自分らしく生きられ

したこともない体験や

ステキな人にたくさん出逢える

この島で、最幸の高校生活をすごしませんか

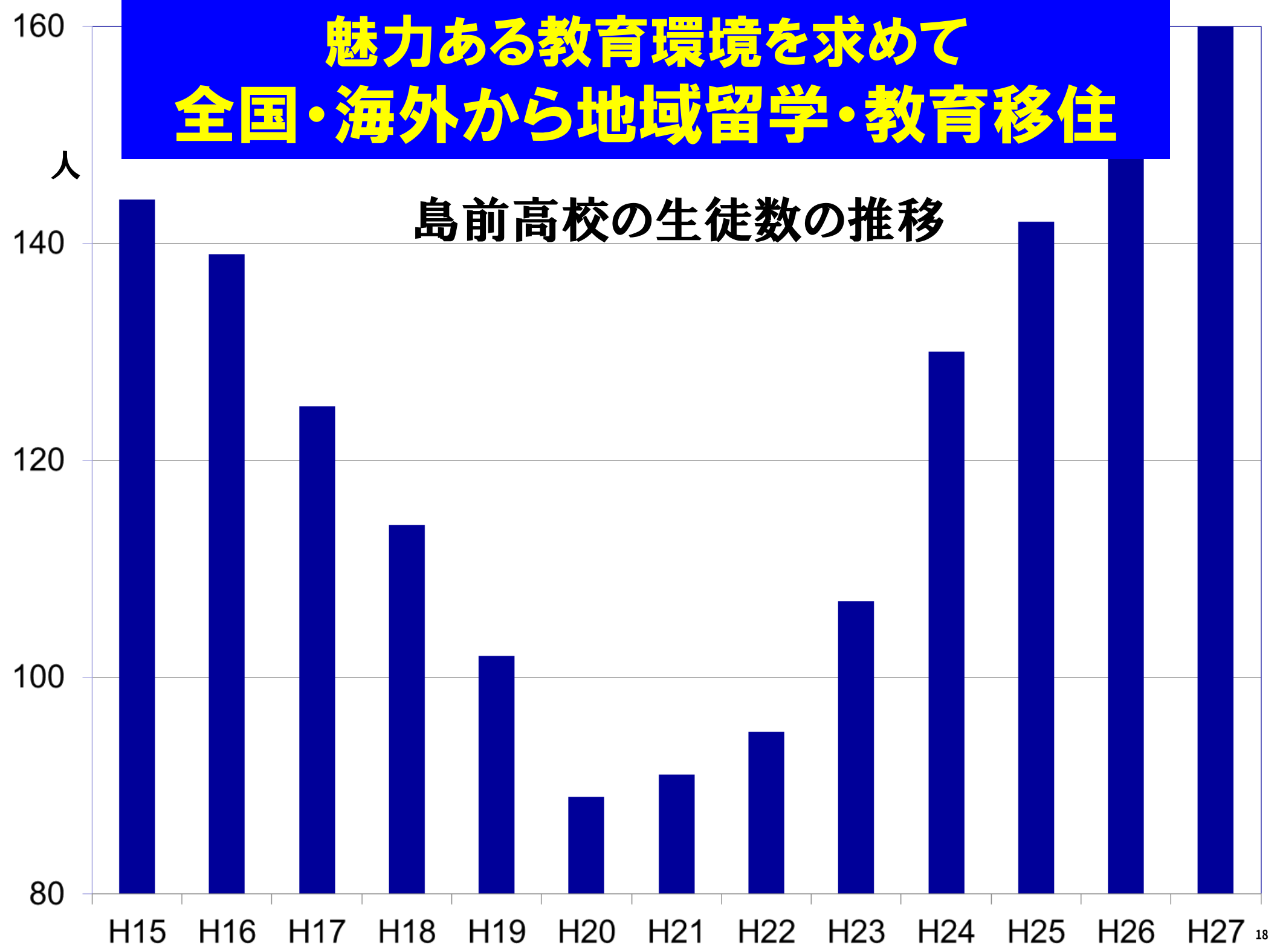
学力＋人間力保障

全国から意志ある多彩な脱藩生募集

「異質性・多様性」を持ち込み活性化へ

留学生と地域をつなぐ島親制度も創設

魅力ある教育環境を求めて
全国・海外から地域留学・教育移住



人の流れの反転

都市部から過疎地へ

子どもたちの地域外流出が止まる

47% ［2007年］ ▶ **89%** ［2015年］

地元高校への進学率

若い家族のUIターンで人口の社会増減が反転

-107人 ［1996年～2005年］ ▶ **+53人** ［2006年～2015年］

年間平均出生数は2倍以上に増加

8人 ［2003年～2005年］ ▶ **18人** ［2013年～2015年］

持続可能性の向上

地域活力の復興

地域の祭や文化が再興・継承（祭で神輿を出せる集落の割合）

36%［2006年］ ▶ 64%［2016年］

地域の基幹産業の観光業が復活（観光客数）

9,329人［2008年］ ▶ 12,202人［2015年］

人口減少予測を大きく覆す（海士町の人口）

2,007人［2000年時点での2015年推計］ ▶ 2,354人［2015年実態］

次代の人づくり

卒業生＝地域社会の創り手

「島の大人は凄い人ばかり、
いつか島に戻って
あの人達を超えたい」

「将来、西ノ島にオーベルジュを開き、
食と交流を通じて町を元気にしたい」

「３０歳で町に戻って町長になり、
住民幸福度日本一の町を実現する」

「ICTを活用したスマートファームで
知夫から畜産業の未来を変える」

東京出身

「海士町の保育士になって、
地域の魅力を活かした
‘島の保育園’をつくりたい」

「このまちの理容問題を解
決する新店舗準備中です」

「今度EUを周るんで島のパンフをつくって
PRしながら、何に興味をもつかマーケ
ティングしてきます」

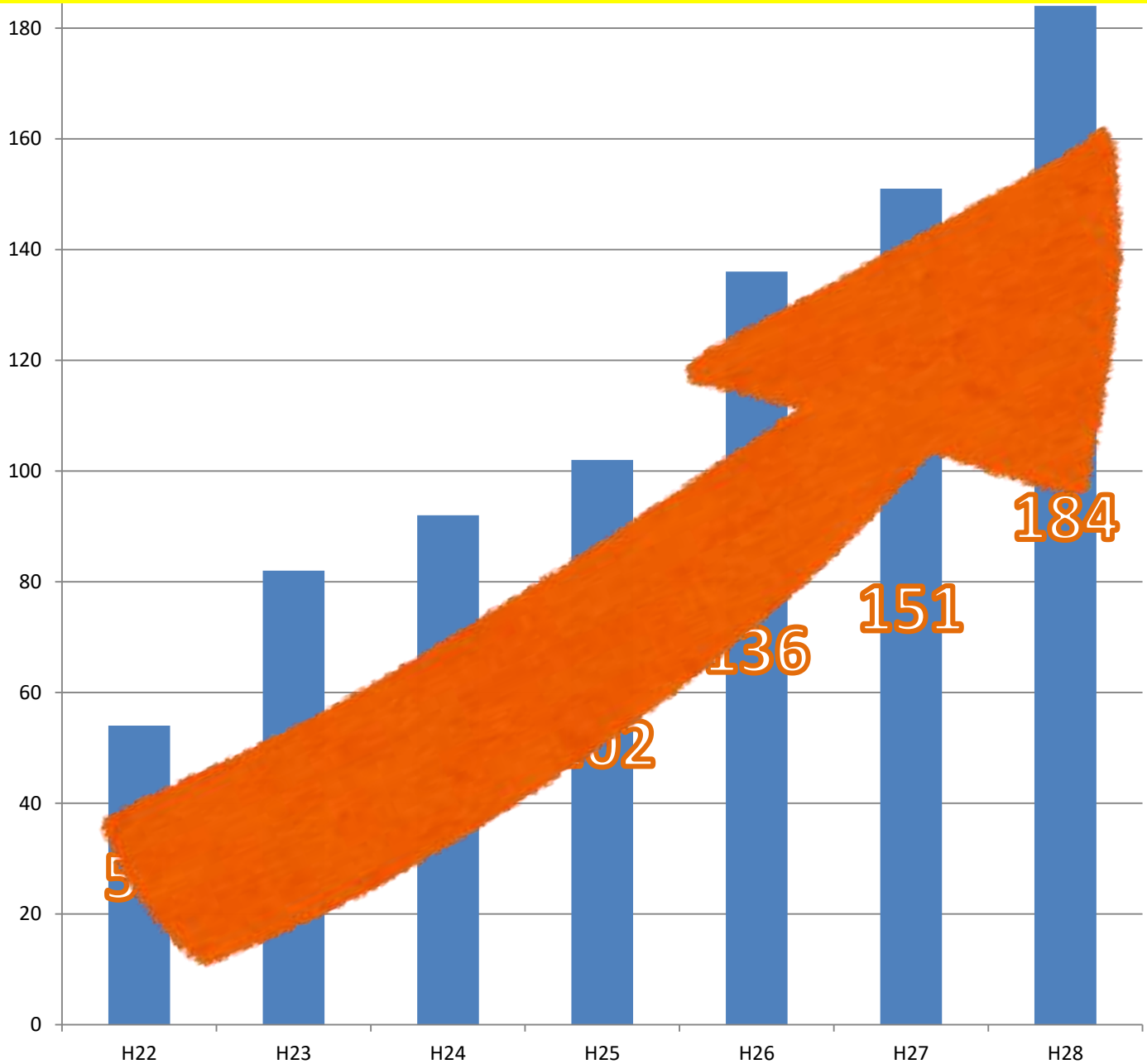
島根県全域に拡がる「高校を核とした地方創生」

【地方創生交付金等の活用】

≪県立高校魅力化ビジョン（素案）≫
・全県立高校に協働コンソーシアム
・地域課題解決型学習の全校実施
・県外国外からの生徒募集推進
・コーディネーター確保・活用・育成
・県教委における各校の伴走支援
・学びの成果,学校評価の改革
・高校入試,中高接続改革 etc.

高校魅力化･教育魅力化事業推進市町村

県外から島根の高校へ入学する「しまね留学生」も増加



県外中学校から
島根県立高校へ
入学した生徒数

島根県の事例

高校を核とした官民協働による地方創生プロジェクト（一部に地方創生推進交付金を活用（H30~H32））
～地域の未来を変えるレバレッジポイントは誰も予想しなかった「学校」にある～

○ 公教育の場へ多様なセクターの参入を積極的に促し、「人の流れの反転」「次代の担い手の輩出」「地域の持続可能性向上」を目指す。
○ 島根県内の意志ある市町村の散発的な取組を、県のリーダーシップのもと、大学や民間団体と協働し、県レベルでの取組として展開。
○ 全国の自治体等との共学共創により新たな地方創生モデルとして全国へスケールアウト。

島根県海士町での「高校魅力化」による成果

人の流れの反転 | 次代の担い手の輩出 | 地域の持続可能性向上

◆ **廃校寸前だった隠岐島前高校が、生徒増・学級増、全国や海外からの志願者が溢れる高校へと転換**
＊隠岐島前高校生徒数：(H20)89人→(H29)184人
＊1学年1クラスから2クラスへ

◆ **親子での教育移住や家族連れのUIターンが増加、教育分野や　地域での起業に意識関心の高い有能な若者が流入**
＊社会増減が反転：（H9～H18）▲121人→（H19～H28）＋85人

地方創生として目指す将来像

東京から地方へ、世界から日本へ | 未来を自分たちで創る意志ある若者 | 課題解決先進国NIPPONの実現

ＫＰＩ

県外・海外から県立高校への入学者数 | 地域課題解決に取り組む大人、高校生の割合 | 共学共創コミュニティへの地域・学校・行政のチームでの参加数

県レベルでの取組として展開

【市町村】地域・学校現場での先駆的な取組の実践

◆ **コアチームづくり**
・多様な主体による縦割りを排した**「魅力化チーム」**の創設
・学校と地域をつなぐ**「魅力化コーディネーター」**の配置

◆ **地域に開かれた学校**
・**「地域協議会」**を結成、地域住民が学校経営に参加
・**「全国からの積極的生徒募集」**（学校内の多様性確保）

◆ **共創的な学び**
・生徒が地域に出て多様な大人と共に学び、
課題解決や地域づくりに安心して挑戦できる環境を創出　など

【県】広域的な取組の推進、先駆的な取組の支援

◆ **教育環境の整備**
・**主幹教諭・事務スタッフ**の配置、**遠隔授業（ICT）**の環境整備

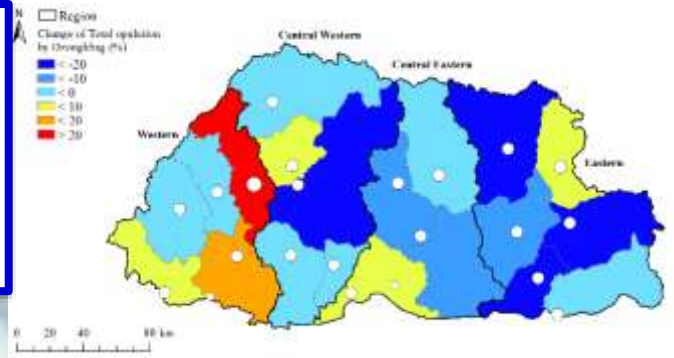
◆ **市町村への支援**
・**「地域協議会」**の事業費支援、**「魅力化コーディネーター」**の配置支援
「全国からの積極的生徒募集」の合同説明会開催

◆ **市町村とのパートナーシップ**
・各市町村に**伴走者**を配置し、**共学共創のコミュニティ**を創出

◆ **民間活力の活用**
・**「子どもの成長指標」「社会的インパクト評価」**の開発　など

海外へのスケール

日本の地域・教育創生が世界で評価。



Edu-Port（日本型教育海外展開モデル事業）に採択。ブータンから

高校を核にした地方創生の要諦
～地域の次代の人づくりの肝～

学校
（例：県立高校）

×

社会
（例：行政,塾,大学,NPO,民間etc）

生徒
（資質・能力育成）

×

地域
（活用・挑戦・課題解決）

内者
（同質・地者・土・ローカル）

×

外者
（異質・よそ者・風・グローバル）

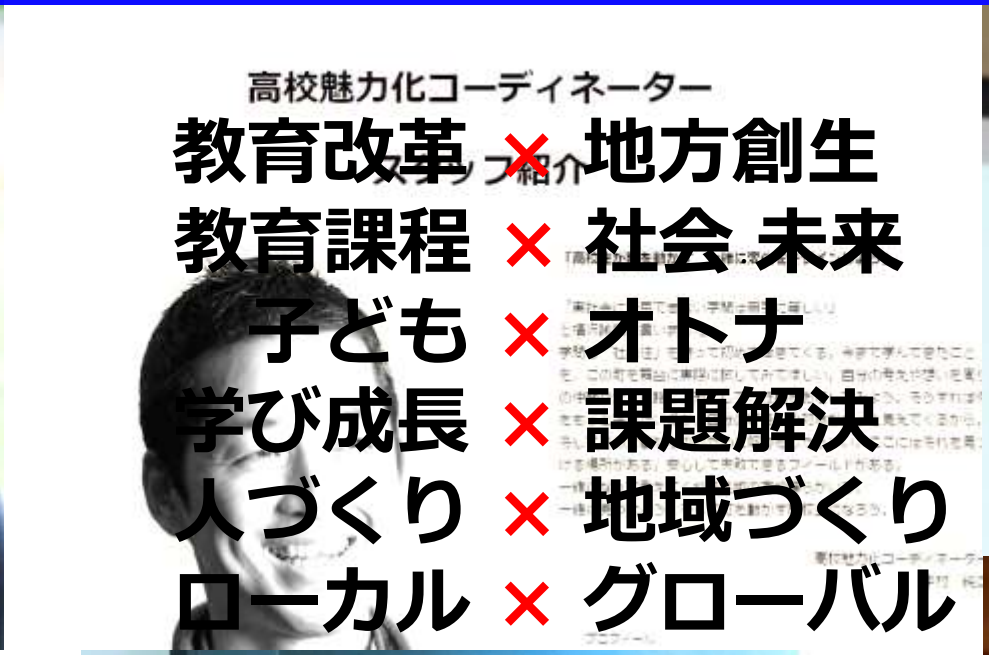
イノベーションとは

既存の要素の新たな組合せ

新たな組合せ（連携・協働）をつくれる
コーディネーション機能・人財が鍵

高校と地域社会をつなぐ「コーディネーター」

（平成30年度5月：全国140人・・・教職員を除く）



教育改革 × 地方創生
教育課程 × 社会 未来
子ども × オトナ
学び成長 × 課題解決
人づくり × 地域づくり
ローカル × グローバル

コーディネーターの主な役割

1. 高校と地域の協働体制づくり

例）協働の組織体制づくり、共通ビジョン・事業計画の策定、協議会の運営など

2. 地域社会に開かれたカリキュラムづくり

例）授業、地域系部活動等でのPBLの開発・運営、インターン・海外巡検の調整など

3. 地域社会での学習機会づくり

例)公営塾など学外の環境整備、生徒の地域活動・社会体験・海外留学等の支援など

4. 人の流れと多様性ある教育環境づくり

例)県外・海外の生徒募集、留学生受入、寮・下宿等の整備・卒業生の還元機会など

5. 社会資源を活用した基盤づくり

例)外部資金の獲得、大学・民間企業等との提携、外部専門家の確保など

島根県における高校魅力化コーディネーター

高校を核にした地方創生の実現に向け、学校（生徒、教職員、教育課程等）と地域・社会（社会教育、行政、大学、民間企業、NPO等）をつなぎ、地域社会に開かれた魅力ある高校づくりを推進する専門人材を高校魅力化コーディネーターとして、市町村が県立高校等に設置している。

１．主な業務内容

- 地域住民や保護者、中学校、行政、NPO等との協働体制の構築
- 地域住民や行政等を巻き込んだ教育ビジョンの策定・遂行
- 教科横断的な視点でのカリキュラムデザイン（教育課程及び指導計画等の策定支援）
- 総合的な学習の時間や学校設定科目等の設計及び外部とのコーディネーション
- 授業、部活動、生徒会活動等での課題発見解決型学習（PBL）のファシリテーション
- キャリア教育、地域連携、海外連携等の校務分掌支援
- 県外や海外からの生徒募集の設計・運営、生徒の受け入れ環境の整備
- 外部資金の調達（市町村事業、補助金、クラウドファンディングなど）
- 寮や公立塾等の運営支援（経営企画、人材採用、連携体制構築、トラブル対応等）

効果

- 生徒の地域活動への参画、主体性や協働性、探究性、社会性の高まり
- 地域住民の教育活動への参画、地域課題を自ら解決しようとする人づくり・地域づくりの推進
- 魅力的な教育活動による生徒数の増加
- 学校を支える者の増加による教職員の多忙・多忙感の減少　　など

２．配置状況等

- 県立高校13校に30人、市町村教育委員会等に27人
- 20代17人、30代30人、40代7人、50歳以上3人
- 経歴は、大手電機会社、大手情報出版会社、人材育成会社、大手小売企業など
- 市町村が財源措置し雇用又はNPO法人等へ委託
  ＊財源は、国特別交付税（地域おこし協力隊、集落支援員）、過疎債、市町村一般財源
- 月額15万～35万円程度

３．育成

- 県教育委員会主催の研修
- コーディネーター同士の共学コミュニティー構築（学習会、相互インターン、合同研修等）
- 島根大学地域教育魅力化センターでの「地域教育コーディネーター育成プログラム」

課題

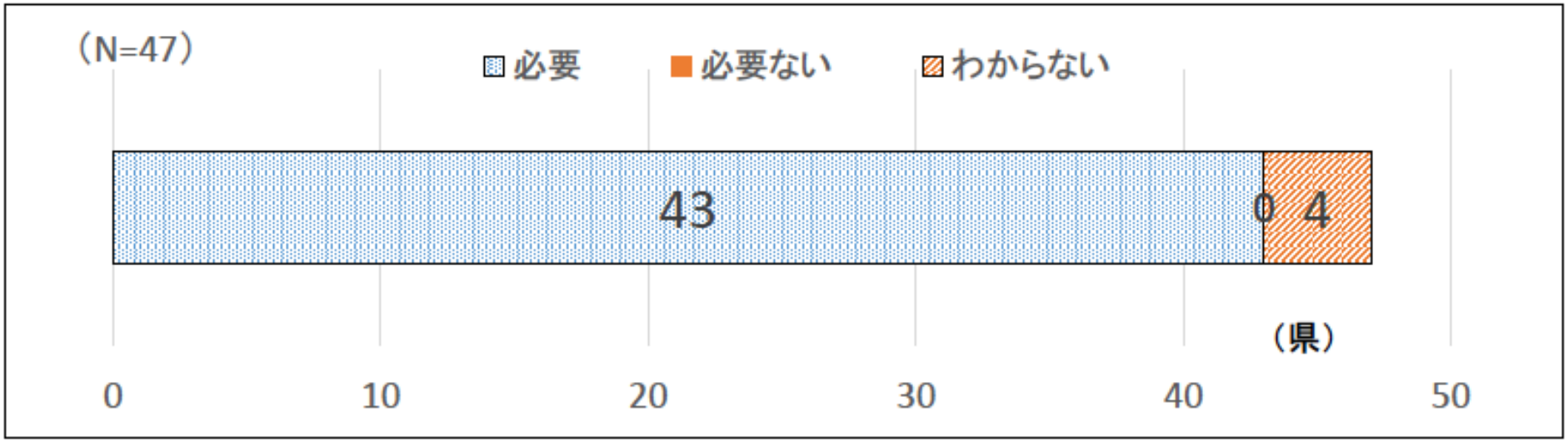
- 学校や行政における位置づけが不明確
- 役割の重要性に見合った処遇・環境・条件が整っていない（雇用形態の保証等）　　など

全国の都道府県の認識

全国都道府県教育長協議会　平成30年度調査研究より

コーディネーターの必要性についての認識

43県が「必要」と回答しており、ほとんどの都道府県がその必要性を認識していることがうかがえる。



【主な理由】

- 学校と地域の事情を理解し、双方を調整できる第三者がいることにより、地域と良好な関係を構築した学校運営が行えることが期待できる
- 高校の位置づけが地域振興の核とされるなど、これまで以上に高校の地域に対する責務と役割が増す中、熱意やコーディネート力等を有する人材を配置することで、教職員の負担軽減も図りながら有効な取組が進められるものと考えられる。
- 『社会に開かれた教育課程』の実現には、学校を知り、地域の実情を知るコーディネーターとしての専門的スキルを持った人材が必須である　など

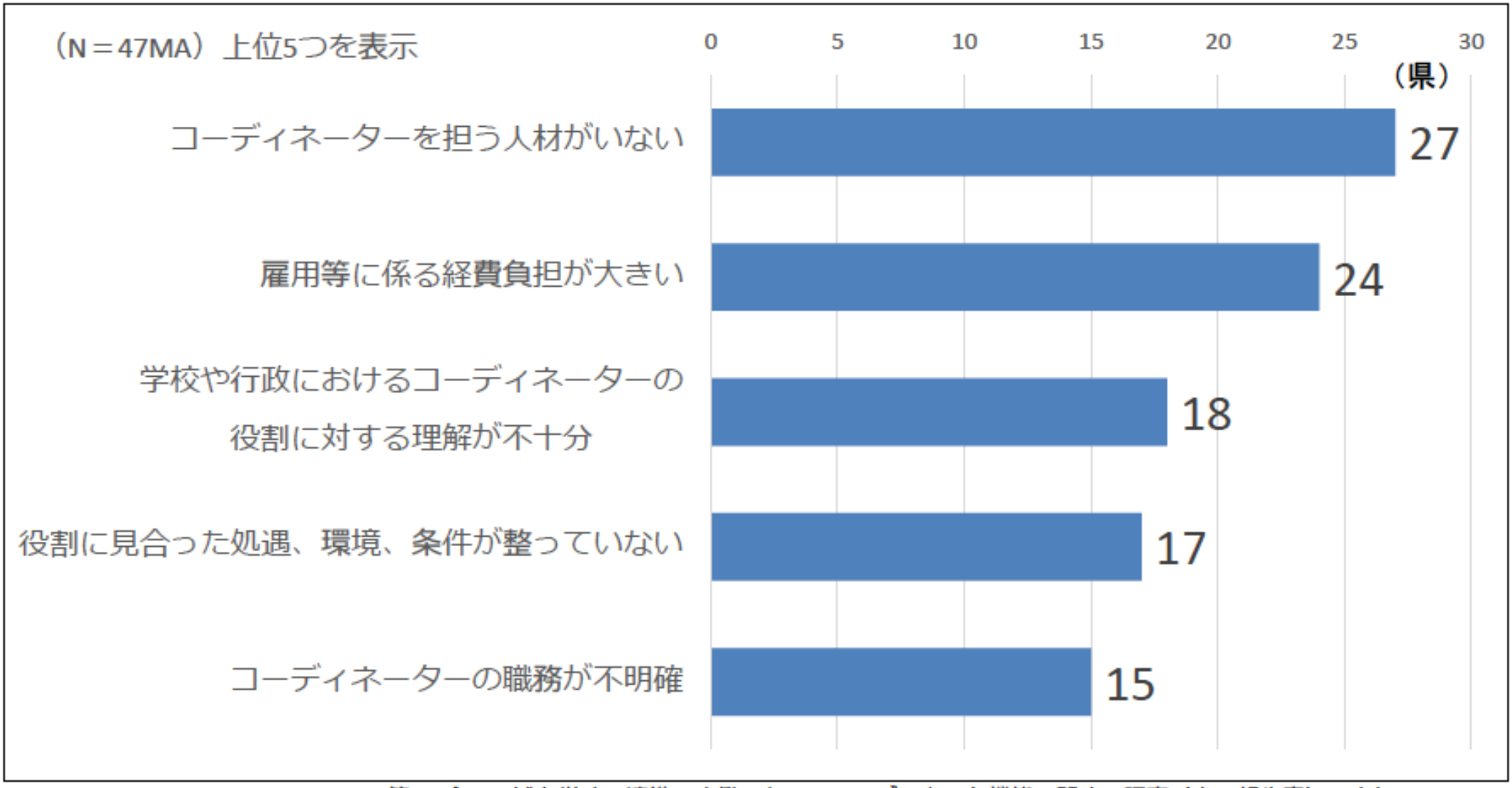
第2部会　地域と学校の連携・協働におけるコーディネート機能に関する調査（中間報告案）　より

全国の都道府県の認識

全国都道府県教育長協議会　平成30年度調査研究より

コーディネーターの配置上の課題

「コーディネーターを担う人材がいない」が27県と最も多く、次いで「雇用等に係る経費負担が大きい」（24県）、「学校や行政におけるコーディネーターの役割に対する理解が不十分」（18県）の順となっている。

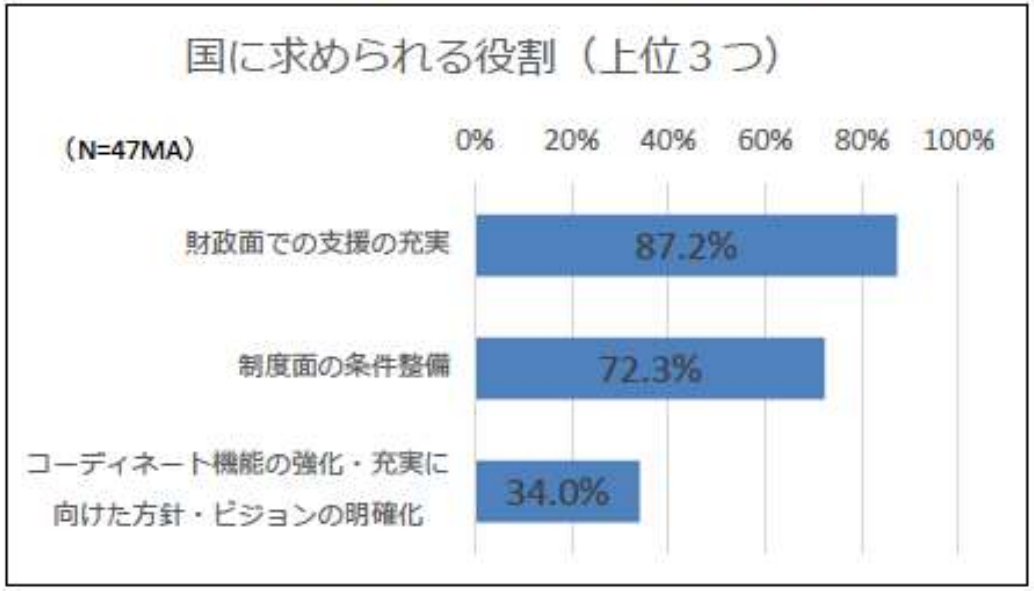


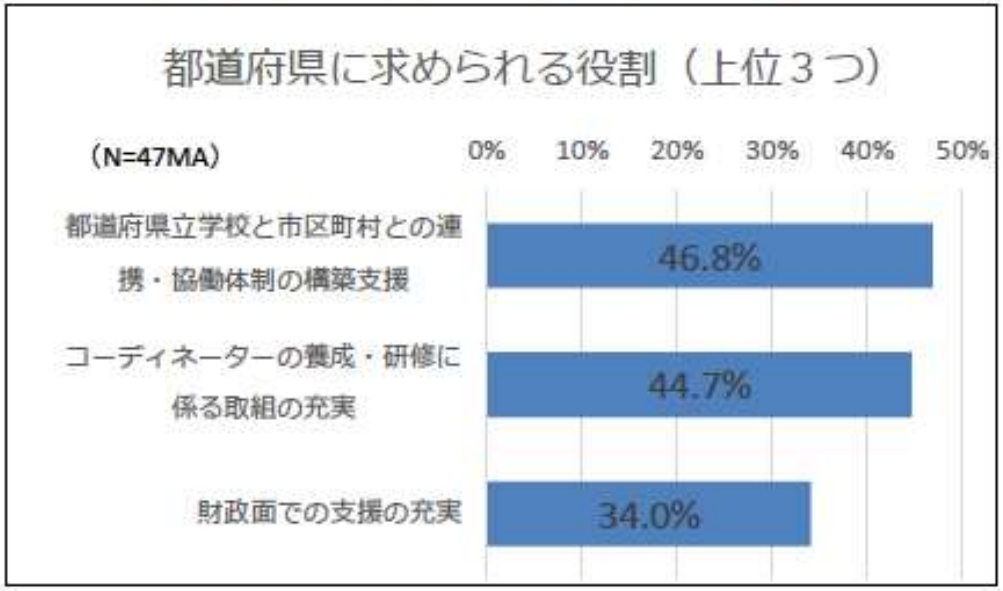
第2部会　地域と学校の連携・協働におけるコーディネート機能に関する調査（中間報告案）　より

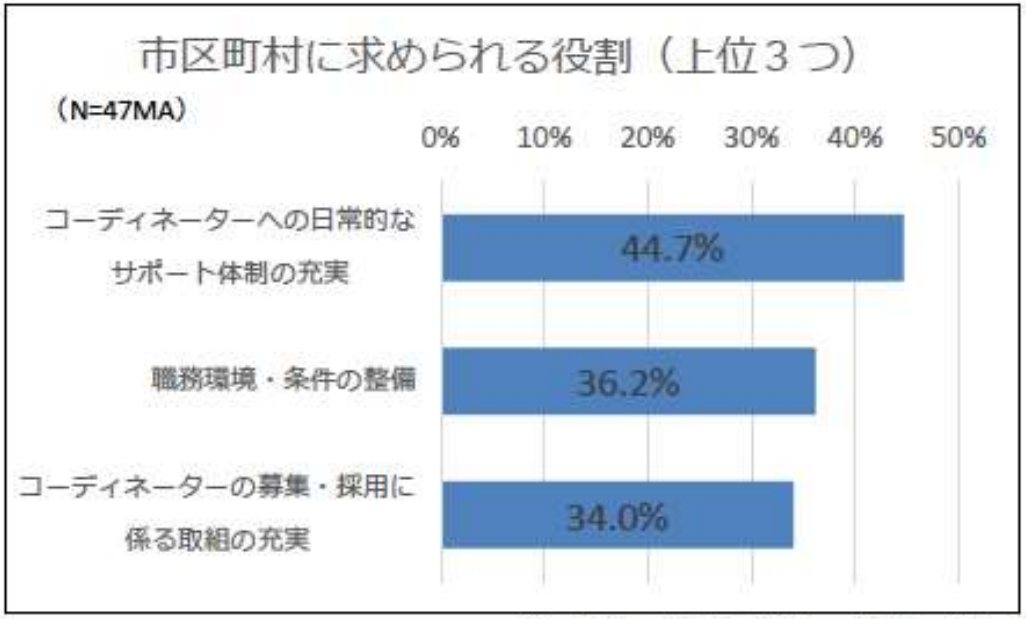
全国の都道府県の認識

全国都道府県教育長協議会　平成30年度調査研究より

コーディネート機能の強化・充実に向けて今後求められる行政の役割



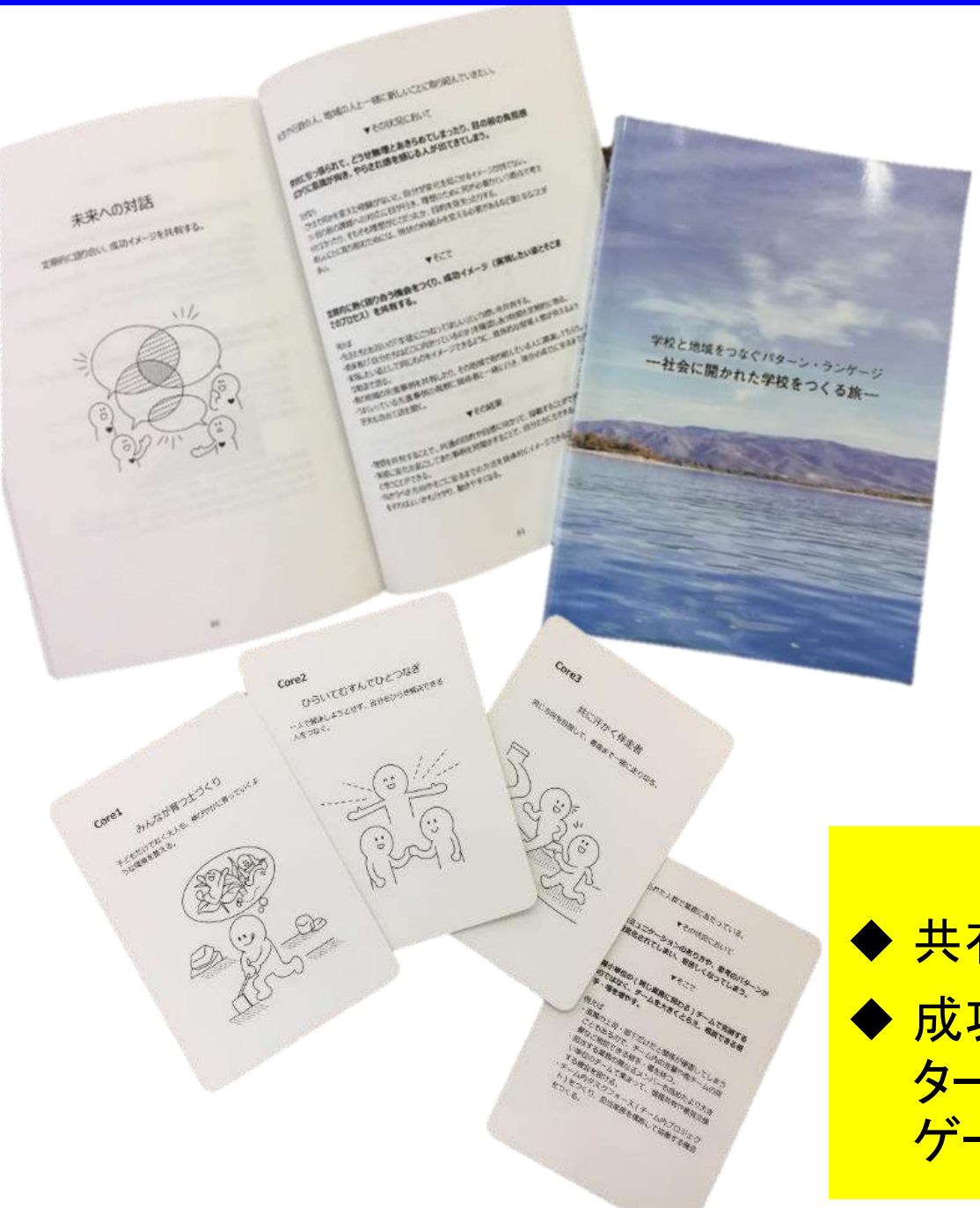




第2部会　地域と学校の連携・協働におけるコーディネート機能に関する調査（中間報告案）　より

コーディネーターの知見・行動の見える化

パターン・ランゲージを活用した評価・育成ツールを開発



パターン・ランゲージ

- ◆ 共有しにくい「コツ」を言語化したもの
- ◆ 成功している事例や経験者にみられる「パターン」を抽出し、抽象化を経て言語「ランゲージ」化

島根大学は地域教育魅力化センターを設置
地域と高校をつなぐコーディネーター育成コース開講
25都府県/50人が参加

地域教育魅力化のリーダーを養成

本プログラムは、高校を中心とする教育の魅力化と地域振興とを結びつけ、地域活性化に取り組む島根県の自治体のノウハウと、大学の教育資源とを組み合わせながら、教育現場と地域を結ぶ「地域 教育コーディネーター」を養成する１年間のコースとして平成２８年に開講しました。すでに３２名が修了し、平成３０年度は１８名が受講しています。今後高まるコーディネーターのニーズに対応できる日本で唯一の大学と地域が協働で行う

履修内容

◆教育魅力化論：ビジョンの作成、実現に求められる資質・能力を身につけます。

◆グローカル人材育成論：グローバル時代における地域活性化を実現する知識・技能を身につけます。

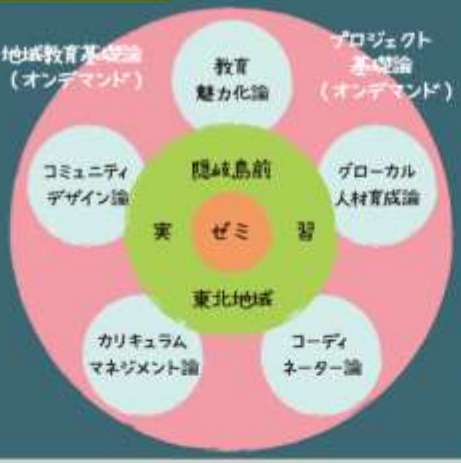
◆コーディネーター論：学校・地域等の巻き込みや事前調整、協働体制構築能力を養います。

◆カリキュラムマネジメント論：社会に開かれた教育課程の実現に向けた資質・能力を身につけます。

◆コミュニティデザイン論：地域づくりの担い手を生み出す、基本的なプロセスを学びます。

◆地域教育＆プロジェクト基礎論：基礎的理論を学びます。

◆ゼミ：プロジェクトを設定し、各講義で習得した知識を用いて進めていき、実践的能力を高めます。



おしえて修了生！

本コースで学んだことを実践で活かすことで現場や自分にどんな「変化」が起こりましたか？

<修了要件>

講義，実習，ゼミを選択し必要時間以上を履修することが求められます。各科目の詳細はホームページをご覧ください。

<履修期間>

2019年4月1日～2020年3月31日

コースの詳細はサイトにてご確認ください
地域教育魅力化センター　ウェブサイト
https://cerd.shimane-u.ac.jp/fmf

講師紹介

岩本悠

島根大学　地域教育アドバイザー
島根県　教育庁　教育魅力化特命官

学生時代、1年間アジアーアフリカ20か国の地域開発の現場を巡る。卒業後、大手電機会社で人材育成・組織開発・社会貢献事業に従事。2006年島根県隠岐郡海士町に移住し、隠岐島前高校の魅力化に従事。

豊田庄吾

島根大学　地域教育コーディネーター
離島留学センター　センター長

大手情報出版会社、人材育成会社を経て、2009年島根県隠岐郡海士町に移住。民間提携型公立塾、離島留学センターを立ち上げる。2013年、県教育委員会より離島高校魅力化コーディネーターの委嘱を受け、キャリア教育の授業も行う。

宮野準也

島根大学　地域教育コーディネーター
知夫村教育魅力化コーディネーター

大手小売企業で4年半、島前高校魅力化プロジェクト（隠岐留学センター）で1年半従事し、2016年4月に人口600人の離島郡知夫村に移住。知夫村教育魅力化コーディネーターとして、小・中学生対象哲学の設計・運営や、反復授学習、総合的な学習の時間のサポートなどを行なっている。

中村怜詞

島根大学　教育学研究科（教職大学院）
准教授

2013年4月から6 2018年3月まで隠岐島前高校にて島前高校魅力化プロジェクトを推進。キャリア教育主任として地域連携型・体験型のキャリア教育や地域課題解決型の探究学習を企画・設計・運営。魅力化推進協議会やSGHも担当し、グローカル人材を育成するための教育プログラムを開発してきた。

岡崎エミ

東北芸術工科大学
コミュニティデザイン学科長

早稲田大学卒業後、出版社勤務を経て、studio-Lに参画。海士町総合振興計画策定委員をはじめ、各地の住民参画のまちづくりに関わる。2014年より東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科にて人材育成に取り組んでいる。

小田順二

島根大学　教育開発センター　専任教員
ふるさと魅力化フロンティア養成コース担当

大手外資系化学会社で26年間人事業務全般に携わる。グローバルビジネス環境下でのキャリア開発、リーダーシップ開発を長年担当。

コーディネーター育成の事例（島根大学）

地域・教育コーディネーター育成プログラム（島根大学　地域教育魅力化センター主催（Ｈ２８～））
～高校を中心とする教育と地域を結ぶコーディネーターを育成する1年コース～

〇コーディネーターをはじめ、教員、高校に関わる市町村職員、県教育委員会指導主事、大学教員、教育系NPO職員、民間人等が協働で学ぶ。
〇3期で25都府県の50名が受講。15名定員のところに毎年定員を大幅に超える応募者があり面接等で選考を実施。
〇演習、実習、ゼミ等で１２０時間以上を履修。約7割はICTを活用した遠隔ライブの双方向型授業。年４回、実習や演習を島根で実施。

科目

「コーディネーター論」「カリキュラムマネジメント論」「教育魅力化論」
「グローカル人材育成論」「地域教育基礎論」「プロジェクト基礎論」
「地域実習（海士町・飯南町）」「課題プロジェクト（ゼミ）」

受講者の属性

コーディネーター	19人
市町村行政職員	9人
学校教員	6人
教育委員会（県/市町）	3人
公立塾	3人
民間企業・その他	10人

受講生の居住都道府県

高校魅力化の挑戦事例

～魅力ある高校教育と地域創生の好循環をつくる～

しまね教育の日フォーラム2018

2018 **11.3** 土祝

会場 くにびきメッセ 国際会議場 島根県松江市学園南1丁目2-1

10:00～16:00

主催：島根県教育委員会　共催：(一財)地域・教育魅力化プラットフォーム
後援：文部科学省(申請中)

第1部 10:00～12:00
教員の高校魅力化の挑戦事例
(隠岐島前高校、益田高校、島根中央高校 他)

第2部 13:00～14:20
市町村と高校の協働に向けた発表・提言(雲南市、奥出雲町 他)

第3部 14:30～15:30
全員参加による対話の場
立場や組織を越えての「本気の対話」

第4部 15:40～16:00
未来へのキックオフ

交流会あり
・アフタープログラム開催 16:30～19:00
・ワークショップ＆交流会(会費制)

全国コーディネーターサミット

～地域教育を共に学び、共に創る～

全国地域教育シンポジウム

2018 **11.4** 日

会場 島根大学 松江キャンパス 大学会館3F 島根県松江市西川津町1060

10:00～16:00　遠隔ライブ配信あり

主催：島根大学　共催：(一財)地域・教育魅力化プラットフォーム
後援：文部科学省(申請中)

第1部 10:00～12:00
共学：社会に開かれた教育の"いま"を問い直す

第2部 13:00～15:30
共創：社会に開かれた教育の"未来"を共に創る
・基調講演「社会と教育をつなぐ"コーディネーター"とは？」
島根県教育魅力化特命官　岩本 悠
・全国の挑戦事例や探究成果の発表
宮崎県五ヶ瀬中等教育学校・広島県立大崎海星高校・島根県立津和野高校 他

第3部 15:30～16:00
全国初！コーディネーター育成プログラムの展開

お問い合わせ・申し込みはこちら

(一財)地域・教育魅力化プラットフォーム
Tel.0852-61-8866　Mail. info@c-platform.or.jp

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

人材育成・還流施策の穴

大人

地域おこし協力隊

地方創生人材支援制度等

青年海外協力隊

ワーキングホリデー等

地方

海外

地域みらい留学

トビタテ！留学JAPAN

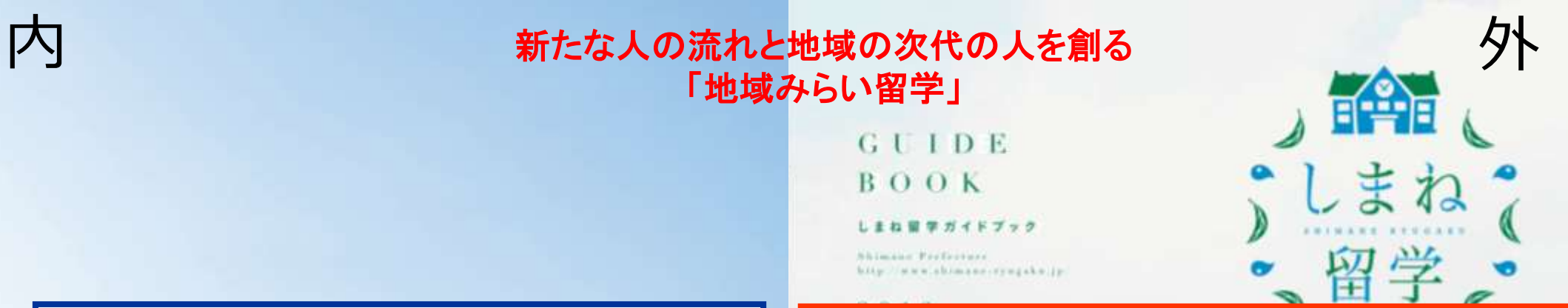
その経験が、未来の自信。

高校生架け橋プロジェクト等

高校生

内　　外

新たな人の流れと地域の次代の人を創る
「地域みらい留学」



地方の生徒

- 多様な価値観・異文化と出逢い
- 新たな刺激・視野の広がり
- ふるさとの価値の再発見
- 生徒増により学校・地域の活性化

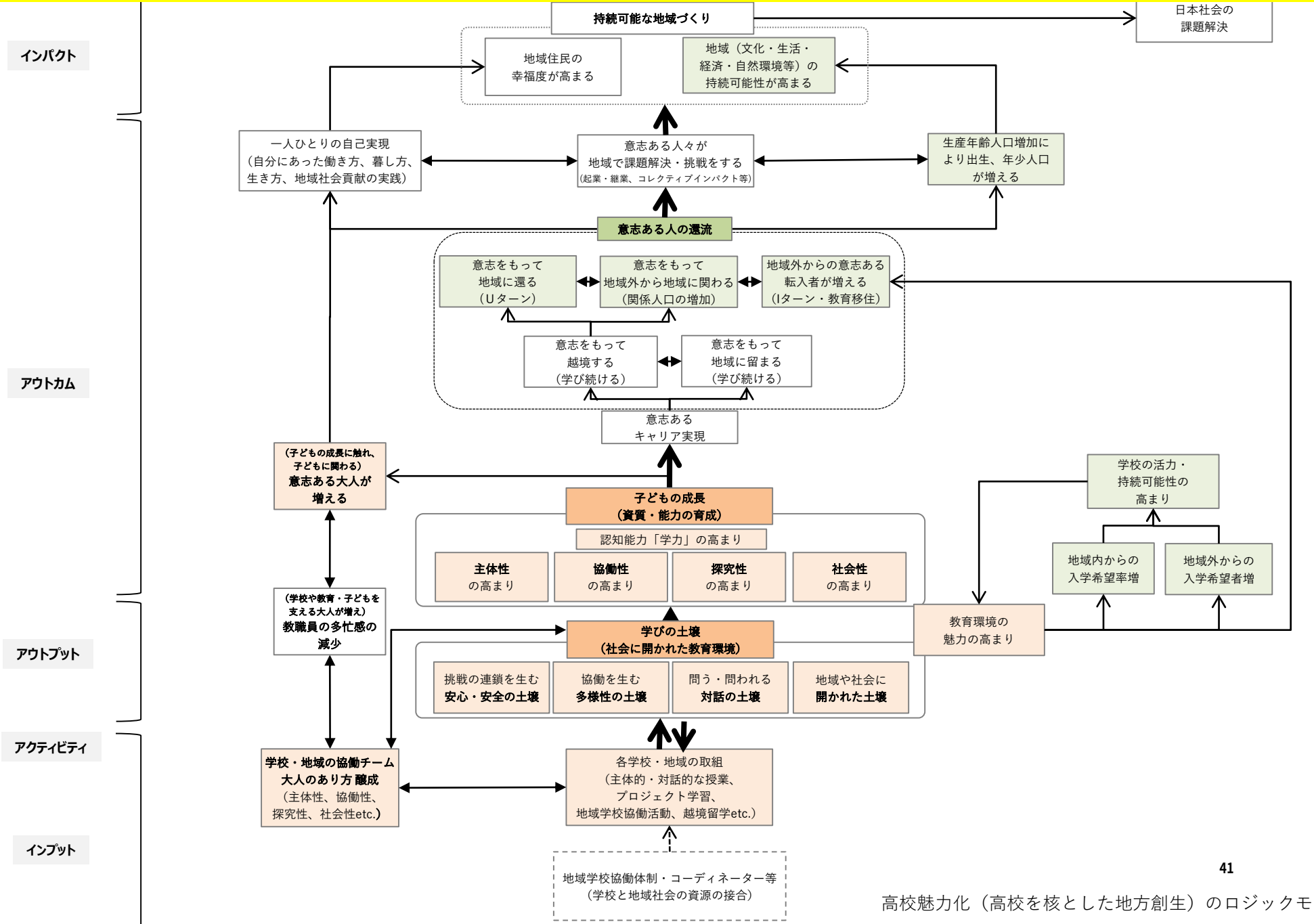
都市部・海外の生徒

- 日本らしい豊かな自然・文化・人間体験
- 自立心、たくましさ、人間力の向上
- 第二のふるさとづくり
- 学校や地域の選択肢が増える

・地方創生を担うグローカル人材輩出
・関係人口・親世代の地方交流・教育移住の促進

新たな人の流れをつくる「地域みらい留学」
～平成30年度のフェアに34校1200人参加～

高校魅力化による地方創生のプロセス・影響の可視化
地域インパクト評価（指標の変化は取り組み開始5年後以降）



高校魅力化（高校を核とした地方創生）のロジックモデル

地域の次代の人づくり・人の流れづくり推進への鍵

①高校を核とした地方創生を推進するコーディネーター（常勤）の配置支援

・地域課題解決型学習など次代の人づくりや地域留学など人の流れづくり等の推進役

・3年間の地域おこし協力隊制度は制度趣旨が異なり、条件・処遇的にも見合わない

②新たな人の流れと人づくりを推進する地域留学の促進施策・事業の創設

・全国プロモーション、フェア、受入環境整備（下宿・寄宿舎等）支援、地域留学奨学金等

・海外留学には支援制度が充実しているが地域留学には皆無。大人に地域おこし協力隊制度や移住促進施策があるように、十代後半の地域まなび応援制度や地域留学促進施策の検討が必要

③人材育成・人づくり事業における短期KPI設定の要件見直し

・人の成長を評価する有効な指標・評価手法が確立していない現時点での短期KPI設定は不毛

・逆に短期のKPI設定を要求することが、中長期的に有効な人づくりに自治体が取り組めない阻害要因になる

従来社会		未来社会
工業化・中央集権化・標準化 大量生産大量消費	社会	AI化・情報化・国際化 多様化・複雑化
指示を受け早く正確に 唯一解を出す力・知識量	資質 能力	主体性・協働性・創造性 課題発見解決・学び続ける力
試験・受験合格に向けた 外発的学習動機	動機	自己実現・社会に向けた 内発的学習動機
教室・学校に閉ざされた 義務的な勉強	教育	地域・社会に開かれた 魅力ある学び

今までの潮流
（教育が地方衰退を促進）

過疎化・少子高齢化
人口減少・文化産業衰退

若者・子ども流出
後継者・誇りの喪失

教育格差

（スケールメリット）

都会の担い手
育成

（地域を出る教育）

教育・学校の
標準化

これからの新潮流
（教育・学校×地方創生）

産業創出・文化継承
地域の魅力化・持続可能化

若者・子ども増
継承者・誇りの創出

地域留学
教育移住

（スモールメリット）

グローカル人材
育成

（地域と世界をつなぐ学び）

教育・学校の
魅力化

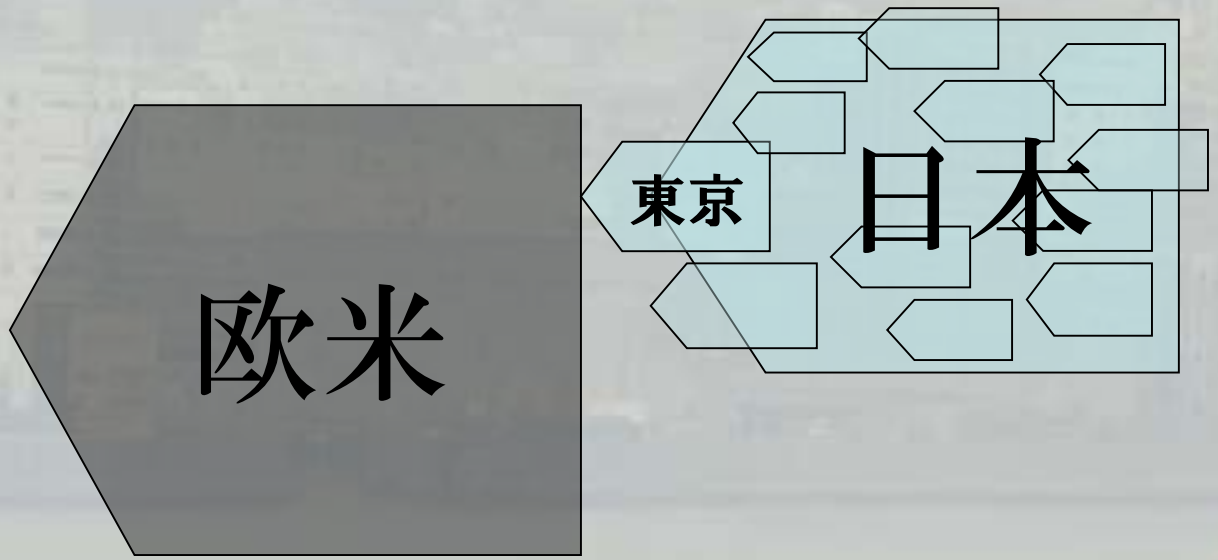
高度成長社会	持続可能社会
経済成長（GNP）・物の豊かさ	幸福度（GNH）・暮らしの豊かさ
ファースト・早い安い便利	スロー・安心安全健康
大量生産・大量消費・規格品・使い捨て・フリートレード	少量多品種・高付加価値・4R・循環型・フェアトレード
グローバル・ビッグビジネス	ソーシャル・コミュニティビジネス
古きを壊し、新しきを造る Scrap & Build	古きを活かし、新しきに紡ぐ 温故維新,Renovation
競争・占有・対立・勝ち負け	共創・共有・協働・三方よし
一極集中・中央集権型	自律分散・ネットワーク型

地方の過疎化・疲弊化・画一化

教育・地域の魅力化・多様化

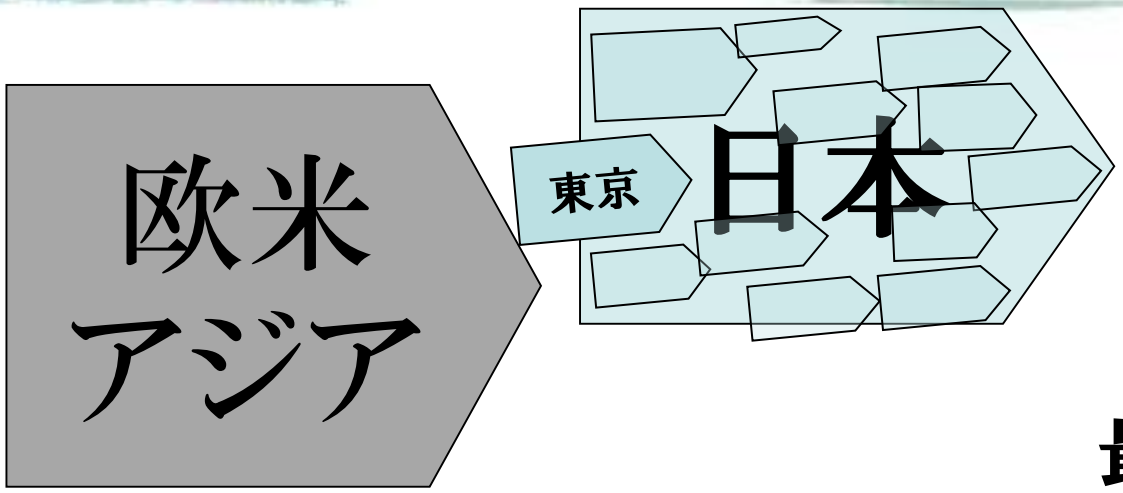
明治～高度成長期イメージ

黒船以来
高度成長社会への
最後尾



今後

持続可能な社会への
曳船に
（タグボート）



最後尾から最先端へ

参考

岩本悠（いわもと　ゆう）

島根県 教育魅力化特命官
地域・教育魅力化プラットフォーム 共同代表

1979年 東京都生まれ。学生時代にアジア・アフリカ 20 ヶ国の地域開発の現場を巡り、『流学日記』を出版。 その印税等でアフガニスタンに学校を建設。

卒業後は、ソニーで人材育成・組織開発・ 社会貢献事業等に従事。

2007 年より島根県海士町で隠岐島前高校を中心とする人づくりによるまちづくりを実践。

プロジェクトは 第一回プラチナ大賞（総務大臣賞）等を受賞。

2015 年から島根県地域振興部と教育庁を兼務し、教育による地域創生に従事。

2016 年 特別ソーシャルイノベーター最優秀賞を受賞（日本財団）。

＜近著＞『未来を変えた島の学校-隠岐島前発ふるさと再興への挑戦』（岩波書店）